

「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部2年 三吉世里子

- ① 今回この西安交通大学サマースクールプログラムに参加したきっかけは、地理的にも歴史的にも繋がりのある隣国・中国についてメディアを通して得た情報しか知らず、実際に現地で自分が見聞きしたり感じたりしてありのままの中国の様子を知りたいと思ったこと、そして中国の学生たちと触れ合ってみたいと思ったことです。日本の大学生として最も感銘を受けたのは、西安交通大学の学生たちの学びに対する熱心さでした。西安に到着し、大学を案内してもらった際に、ある空き教室の半分ほどを自習する学生たちが占めていることに驚きました。先生の話では中国の大学生は朝から夜までびっしり講義が詰まっており、予習や復習だけで授業以外の空き時間がなくなってしまうとのことでしたが、そんな彼らの姿を見るといかに自分が甘えた学生生活を送っているかを思い知らされて反省しました。また、日本語学科の学生たちは私たちとの日常的な会話においてほとんど差し支えなくコミュニケーションが取れており、大学から日本語を始めた彼らに比べて中学から英語を始めたのにほとんど使えない自分を情けなくも感じました。しかしそれが逆に私を鼓舞してくれました。彼らと話をするうちに、もっと勉強しよう、語学も専門も頑張ろう、とモチベーションを高めることができました。そして将来的には留学を考えている自分の人生設計に中国留学という可能性を与えてくれました。
- ② ですが、中国で生活するにあたって、日本を基準にしてしまうとはいえ「不便だな」と感じることは多々ありました。トイレにトイレットペーパーが備え付けられていないこと、生水が飲めないこと、道路では歩行者よりも自動車が優先されること、などです。慣れてくるとさほど問題ではないのですが、生まれて以来ずっと日本で暮らしていた身には、ちょっとしたことが不便に思えたりもしました。
- ③ このプログラムでは西安交通大学に通って授業を受ける形式での中国語学習と、兵馬俑や民俗博物館などを訪れて中国の歴史や文化について学ぶフィールドワークが中心でした。中国語学習については、自分が中国語の勉強を始めて日が浅かったこともあり成果はまずまずといったところでしたが、フィールドワークでは名所史跡のみならず大学近辺や西安の中心街などさまざまな場所に行き、人々の身近な暮らしに触れることができました。特に鐘楼や回民街の周辺の賑やかな様子が印象に残りました。
- ④ わずか10日間ほどの短い期間でしたが、中国という国でしか得られない経験ができ、また自分の視野を広げることにも繋がった貴重な留学生活を送ることができました。機会があれば再び中国へ足を運び、今度は別の都市や地域で西安とはまた異なる様相を見せる“中国”の姿を目にしたいと思います。